

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
○ICT 機器の活用のための研修会を行いタブレット端末を含めた活用を考えた。 ○生徒が安心して学習に取り組めるように教室環境を整えた。良好な学級集団を育成するためにhyperQ Uを利用した研修会を行い個々の生徒理解を深めた。 ▽授業の分かりやすさについて、学校評価アンケートを利用して分析を行い授業改善する。	●デジタルドリルを月曜日と水曜日の朝、各自の課題に基づいて行っている。この学習状況を各教科で確認し、弱点分野を授業の中で補充していく。 ●定期考査の学習計画を立てることにより、生徒一人ひとりに主体的に学習に取り組む力を身に付けさせる。 ▼ディスプレイ型電子黒板の活用方法を研究し、生徒によりわかりやすい授業を行う。

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
【国語】 ○書き方や読み方を重視した授業や、教科書以外の教材を用いた授業を計画・実施することができた。 ○生徒に定着させたい能力や内容に応じて、適切なワークシートを作成したり、副教材を使ったりすることで、生徒の自主的な反復学習に働きかけを行った。 ▽生徒ごとの、活動に向かう姿勢の差が大きく、一斉指導においては、十分に活動できない生徒が一定数いた。 ▽学力調査や考査等において、漢字の書き取りを苦手としている生徒が多数いることが分かった。	●今後も、同様の指導方法を継続していくとともに、教科書に配置されている文学作品等を活用し、既習事項を生かした発展的な指導を行っていく。 ●年度の後半に向けて、特に苦手意識の強い生徒の多い古文や文法の内容が増えるので、資料や副教材を活用し重点的に、指導を行っていく。 ▼これまでの活動内容への評価を生かし、個別の振り返り課題を出したり、デジタルドリルの対応個所を提示したりする。また、特に苦手の多かった漢字の書き取りについては、授業の帯単元の時間や長期休業中の課題を通じてフォローアップしていく。
【数学】 中学3年の区学力調査において ○文字式の累乗や平行線の性質を利用した問題で、全国・新宿区と比較しても良好な得点を記録することができた。 ○基礎問題においては、全体的に高い得点がみられ、特に連立方程式や特別な四角形の条件に関する問題で高い正答率となった。 ▽等積変形を利用した三角形の面積や、1次関数を用いた記述式の問題では、得点が低く、特に応用問題への取り組みに課題がみられた。 ▽D層での得点が全体的に低く、基礎問題での理解が不十分である。	●応用力を養うために、授業での演習や問題集を通じて、応用問題に多く触れさせる。 ▼D層の生徒に対しては、基礎力を強化するための個別指導や補習を実施する。特に、短答式問題での理解度を高めるために、繰り返し練習をさせる。 ▼生徒同士でのグループ学習を促し、互いに教え合うことで、問題解決能力や理解を深める活動を増やす。 ▼生徒の進捗を定期的に確認し、理解度に応じたフィードバックを行うことで、学習意欲を高める環境を整える。

【理科】 ○基礎的な既習事項の定着に向けて、一度学習した内容を振り返りながら、繰り返し学習を行い、定着を図った。 ○応用問題や記述式問題の解答力をさらに向上させていくため、様々な問題を授業内で扱った。 ▽授業内で、つまずきの原因を見取った際に、個別指導をする時間を作り出すことが難しい。 ▽授業全体を通じて上位層から下位層まで興味関心を惹くような発問をするよう努めているが、分野によって難しい場合がある。	●反復学習したくなるようなプリントの工夫行う。 ●応用問題・記述問題の解答力をさらに向上させるための追加の教材を作成する。 ▼プリントや追加実験などの個別課題を作成し、個別指導できる時間を生み出す。 ▼上位層から下位層まで興味関心を惹くような発問をするための教材研究を行う。区内の研修や外部の研修に積極的に参加する。
【社会】 ○基礎・基本の定着を図るために、前時の復習を授業冒頭で行い、繰り返し知識の定着を図った。 ○社会科的な事柄を正しく表現できるように、考えを記述する練習やディベートを行うことで実際に表現を行う機会を作った。 ○視覚資料を多く用いることで、イメージが付きやすいようにした。 ▽単元によって、抽象的な内容になると理解の定着に時間を要してしまう。 ▽社会科的な事柄が多岐に渡るため、十分な活動時間の確保が難しいことがある。	●理解の定着を図るために、今後も随時、反復的な復習は行っていく ●視覚資料は有効であるので、今後も継続していく。 ▼資料内容を精選しながら動画などの活用やディスプレイ型電子黒板の有効な使い方について研究と実践を行っていくようにする。 ▼表出が苦手な生徒が多いため、記述や対話など様々な方法で表出の機会を十分に設定していく。
【英語】 ○1，2年を中心に、Small Talk などの英語を話す活動を積極的に授業へ取り入れたために、昨年度以上に生徒が主体的に英語を使うようになってきている。 ○ALT がほぼ毎日授業にいるため、生徒が英語でコミュニケーションをとる機会は確保できている。 ▽生徒用タブレットでもデジタル教科書が使用できるようになっているが、授業や家庭学習で生徒が使用するような機会は十分に与えられていない。 ▽令和6年度区学力調査の結果から、平均正答率のすべての項目で、全国（公立）の数値よりも約5ポイント以上上回っているが、新宿区内と比較すると2ポイントほど全て下回っており、既習内容の定着が十分とは言えない生徒がいる。	●今後の授業でも継続的に生徒が発話する活動を取り入れ、毎回の授業で生徒が英語を話す機会を充実させる。また、話すときに必要な表現も指導していく。 ●ALT と協力し、生徒が意欲的に取り組むことができる教材の開発を進めていく。ALT とコミュニケーションを取りながら、書く活動も積極的に取り入れるように工夫していく。 ▼生徒がデジタル教科書を用いて家庭学習の充実を図れるように、タブレット端末を用いた課題を出したり、音読テストを実施したりするようにしていく。 ▼単語テストや小テストで小刻みに既習の単元や文法項目について定着できているかを確認する。それらの結果から、必要に応じて、授業内で復習できる活動を取り入れるようにする。